



望と勇

令和8年2月6日
No.45
文責 田中 誠

意気込み

月曜日に、今年度最後の児童総会が行われました。委員長から、令和7年度下半期の活動報告と来年度の展望が語られました。その後、令和8年度の児童会長と副会長および各委員会の委員長、副委員長、書記の皆さんから自己紹介がありました。児童会長選挙活動や立会演説会の様子をお伝えした際にも書きましたが、この児童総会もまた、引き継ぎの一つとしてとても大事な時間となりました。



児童会活動は、特別活動という教育課程の一つです。ですので定例委員会も児童総会も、子どもたちの育ちの姿を願って教職員が設定する「授業」です。ただし、ほかの教科等以上に子どもたちの意思や判断にゆだねる場面が多く、その経験を積むことで様々な育ちが期待できます。例えば、話し合い活動の手順や、合意形成の方法についての理解。学校や地域・社会の課題を見つけ、解決方法を話し合ったり、合意形成を図ったりする力。さらに、主体的に活動を計画し、自己の役割を果たす力などです。それらの育成には、じっくりと腰を据える必要があります。

6年生から5年生へと引き継ぎが行われますが、引き継いだからといって新役員の皆さんのが最初からできるというわけではありません。会長として、委員長としての経験を積んで、1年たった頃にようやく慣れる、なんてこともあるかも知れません。それでも緊張の面持ちで、でも精一杯の声で自己紹介する役員の皆さんと、友だちの晴れ舞台を座席から見守る5年生の皆さんの姿からは、自分たちがやるぞ！という意気込みが伝わってきました。バトンがまた、受け渡されようとしています。